

# ワイヤレスマイクロホン Wireless Microphone 无线麦克风

## 取扱説明書 使用说明书 작동 지침서

ご購入いただきありがとうございます。  
**警告** 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。  
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



©2009 Sony Corporation Printed in Japan

**Active Interface Shoe**  
このマークの商品は、ソニー（株）のビデオ機器のアクティブインターフェースシステムに対応しています。このシステムを搭載したビデオ機とアクセサリーを組み合わせることで、目的に合わせた効果的な撮影が簡単に行えます。

http://www.sony.net/  
この説明書は、市販 70%以上の再生紙と、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。  
Printed on 70% or more recycled paper using VOC (Volatile Organic Compound)-free vegetable oil based ink.

### 日本語

#### 警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。  
● **安全のための注意事項を守る** この安全のためにの注意事項をよくお読みください。  
● **故障なら直さない** 動作がおかしくなったり、破損しているの気づいたら、すぐにソニーの相談窓口へご相談ください。  
● **万一、異常が起きたら**

変な音：においがしたら、煙が出たら。 → ⑧ビデオカメラから取りはずす ⑨ソニーの相談窓口にご相談ください。

**警告表示の意味**  
取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**警告** この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

**注意** この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。



**警告** 下記の注意事項を守らないと、火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

**内部に水や異物を入れない**  
水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐにスイッチを切り、ソニーの相談窓口へご相談ください。

**分解や改造をしない**  
火災や感電の原因となります。危険です。絶対に自分で分解しないでください。内部の高圧電線や修理はソニーの相談窓口へご相談ください。

**心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離して使用する**  
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

**病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くでは本機を使用しない**  
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

**航空機内では本機を使用しない**  
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

**本機を使用しない他の機器に電波障害などが発生した場合は、本機を使用しない**  
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

**運転中は使用しない**  
● 自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンやイヤホンなどを使用したり、細かい操作をすることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。  
● また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分にご注意ください。

**注意** 下記の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

**危険** 大音量で長時間聴いて聞かさない  
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンやイヤホンで聞くときにご注意ください。周囲の音漏れにもご注意ください。呼びかけられて返事ができるぐらいの音量で聞きましょう。

**注意** 湿気やほこり、油煙、湿気が多い場所や直射日光のあたる場所には置かない  
故障の原因となります。

**注意** 落としたりぶつけたりしない  
故障の原因となります。

**注意** めれた手で本機や電池をさわらない  
感電の原因となる場合があります。

**注意** 電池の挿入口や端子などから、内部に金属屑や燃えやすい物などの異物を差し込んだり、落としたりしない  
火災・感電の原因となります。

**危険** 電池についての安全上のご注意とお願い  
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

**危険** ● 火の中に入れてください。ショートさせたり、分解、加熱しないでください。  
● 火のそばや炎下、高温になった車の中に放置しないでください。

**警告** ● 乾電池は充電しないでください。  
● 指定された種類の電池を使用してください。  
● 金属に触れ、◎、◎がショートすると発熱、発火する危険があります。

**注意** ● ◎と◎の向きを正しく入れてください。  
● 電池を使い切ったとき、長期間使用しないときは、取り出しておいてください。  
● 電池の電極と本機の電池端子部は時々乾いた布などで汚れを拭き取ってください。電極や電池端子部に皮膜などの汚れがふくと、動作時間が極端に短くなる場合があります。

もし電池の液が漏れたときは、電池ケース内の漏れた液をよくふきとって、新しい電池を入れてください。万一、液が身体や衣服についたときは、液をよく洗い流してください。

### 主な特長

- 本機は、アクティブインターフェースシュを搭載した、対応ビデオカメラで使用できます。
- ビデオカメラから遠く離れた被写体の音声を明確に記録できます。
- 5.1chサラウンド対応のビデオカメラに装着すると、5.1chサラウンドのセンターチャンネルマイクとして機能し、立体感のある音声を明確に記録できます。
- 本機は、Bluetooth無線通信技術を使用したワイヤレスマイクロホンです。
- ビデオカメラに取り付けるレシーバーと被写体側のマイクロホン(トランスミッター)(以下、マイクロホンと略する)をそれぞれマイクロユニットとイヤホン端子を装備しています。撮影をしている人と被写体の人を離れても会話することが可能で、それらの音声を記録することもできます。

### Bluetooth® 無線通信技術について

- Bluetooth無線通信技術とは、パソコンとその周辺機器、携帯電話など、さまざまな機器同士を無線で接続し、相互の通信を可能にする技術の名称です。
- 本機は製造時にレシーバーとマイクロホンのペアで通信できるように設定しています。そのため一般のBluetooth機器で必要な認証、ペアリング(パスキー)の人工操作は必要ありませんが、ペアで販売されている以外のレシーバーとマイクロホンの組み合わせや、複数のマイクロホン、一般のBluetooth機能を搭載しているパソコン、携帯電話とは通信できません。

**ご注意**  
本機は以下の状況において通信感度に影響を受けることがあります。  
レシーバー側とマイクロホンの間に人体や金属、磁石は放射線などの障害物がある場合  
- 無線LANが構築されている場所、複数のBluetooth機器を連続して使用している場所、電子レンジ使用中の周辺、その他電磁波が発生している場所など  
● マイクロホンをビデオカメラに近づけると、電波の影響で、記録される音声がノイズが入る場合があります。1m以上離れた状態で使用してください。  
● 通信感度が低下して音声が途切れたり、ノイズが発生する場合は、レシーバーの通信ランプが早い点滅をします。距離が遠い場合、障害物がないかを確認し、通信ランプが安定して点灯している状態で使用してください。

### 取り扱ひ上のご注意

- 本機は精密機器です。落としたり、たたくたり、強い衝撃を与えないでください。
- 高温多湿の場所での使用、保存は避けてください。
- 使用中、イヤホンマイク(取首部)に近づくと「ピー」という音が発生することがあります(ハウリング現象)。その場合は、イヤホンとマイク(取首部)の距離をできるだけ離してください。
- 使用中にマイクロホンに触れると、ノイズとして録音されてしまいます。手などが触れないようにご注意ください。
- レシーバーを持って、ビデオカメラを持ち上げないでください。
- 温度の低い場所では本機を使用する場合は、常温時(25℃)に比べて電池の性能が低下しますので、使用できる時間が短くなります。

### 機器認証について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線機の無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。

**商標について**  
● Bluetoothトレードマークは、商標権利者が所有しており、ソニーはライセンスに基づき使用しています。  
● その他、この取扱説明書に記載されているシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークはすべてについて明記していません。

### 周波数について

本機は2.4GHz帯(2.400GHzから2.4835GHz)まで使用していますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項にご注意してください。

### 使用上のご注意

本機の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体通信用局内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局など(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで他の無線局が運用されていないことを確認してください。

2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本機の使用場所を変えるか、または本機の使用を停止(電波の発射を止)してください。

3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口へご相談ください。

この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、干渉距離は50m以下です。

### モードスイッチについて

ビデオカメラで録音を開始する前にレシーバーの電源/モードスイッチを切り換えることにより、以下のモードで使用いただけます。

- **SINGLEモード**  
マイクロホンで収録した音声のみを録音します。  
マイクロホン/端子部、取り付けた被写体の音声を、ビデオカメラから離れた場所でも明確にモノラル録音することができます。
- **5.1ch MIXモード**  
5.1chサラウンド対応のビデオカメラと組み合わせると、5.1chサラウンドのセンターマイクとして使用でき、マイクロホンとビデオカメラ周辺の音声を両方とも臨場感ある5.1chサラウンドで録音できます。
- **MONO MIXモード**  
マイクロホンとビデオカメラ周辺の音声をミックスしてモノラルで録音できます。(レシーバーとマイクロホンが同じ音声を収録した場合、エコーや音割れが起きる場合があります。5.1chサラウンド対応のビデオカメラをお使いの場合は、5.1ch MIXモードをお使いになることをおすすめします。)
- **3つモードのいずれでも、通信接続中はそれぞれイヤホンと接続することで、マイクロホン側ではレシーバー周辺の音声を、レシーバー側ではマイクロホン周辺の音声を聞くことができます。ビデオカメラで撮影する人とマイクロホンを持った被写体の人から離れたところで会話することができます。**

### 各部の名称 (イラスト ④ 参照)

**レシーバー (イラスト ④ 1参照)**  
①イヤホン端子  
マイクロホンで収録している音声が確認できます。

②FRONT (受信部)  
③固定ツマミ  
④イヤホン端子 (端子部)  
⑤音量調節ボタン◎◎ (VOLUME)

### ⑥通信ランプ

機器や通信の状態によって、ランプは以下のように点灯・点滅・消灯します。

状態	レシーバー	マイクロホン
レシーバーとマイクロホンのスイッチをONにした直後	青色で遅い点滅(待ち受け状態)	
接続状態になり、音声が明確に記録できる	青色で点灯	
レシーバーまたはビデオカメラのスイッチをOFFにする	消灯	青色で遅い点滅(待ち受け状態)
ビデオカメラのスイッチをOFFにする		青色で遅い点滅(待ち受け状態)
通信状態が悪く、音声が途切れるとき	青色で早い点滅	青色で早い点滅

⑦**マイクロホンバッテリー警告ランプ(MIC BATT)**  
マイクロホンの電池が残り少なくなると、赤い残量ランプが約1秒間明で点滅します。早めに電池を新しいものと取り換えてください。

⑧**マイク(取首部)**  
⑨**電源/モードスイッチ**

### マイクロホン (イラスト ④-2 参照)

⑩**電源スイッチ**  
電池の消費を防ぐために、使用しないときは電源スイッチを切ってください。

⑪**ストラップ(表を参照)**  
⑫**イヤホン端子**  
レシーバーで収録している音声が確認できます。

⑬**マイク(取首部)**  
⑭**ストラップ付付録**  
ストラップなど(同梱していません)を取り付けられます。必要に応じてご使用ください。

⑮**バッテリー警告ランプ(BATT)**  
マイクロホンの電池が残り少なくなると、赤い残量ランプが約1秒間明で点滅します。早めに電池を新しいものと取り換えてください。

⑯**音量調節ボタン◎◎ (VOLUME)**  
⑰**電池ふた**  
⑱**クリップ**  
衣服、付録のアームバンドに取り付けるときに使用します。クリップを下にして、マイクロホンを机の上などに置くこともできます。

⑳**ウィンドスクリーン**  
マイクロホンにかぶせて使用することにより、強い風や息が直接あたるとき発生する「ポコポコ」という雑音を減らします。

### 取り付けかた

**レシーバー (イラスト ④ 参照)**  
レシーバーをビデオカメラに取り付ける/取りはずす際は、レシーバーとビデオカメラの電源スイッチが「OFF」の状態で行ってください。

1. レシーバーの固定ツマミが反時計方向①に回っているかを確認する(イラスト ④-1)。
2. レシーバーの裏面にある矢印②とビデオカメラにある矢印③の方向を合わせる(イラスト ④-1)。
3. レシーバーのシューネクター(端子部)をビデオカメラのシュー④にはめ込み、矢印⑤の方向に固定ツマミを時計方向に回し固定させる(イラスト ④-1)。
4. 固定ツマミを時計方向に回し固定させる(イラスト ④-1)。
5. ビデオカメラのレンズの方向にあわせて、レシーバーを回転させる。レシーバーは約270度回転します。レシーバーのFRONT (受信部)がビデオカメラのレンズ側を向くようにしてください(イラスト ④-3)。270度以上回転させると故障の原因となります。

**取りはずすとき**  
1. 固定ツマミを反時計方向に回してゆるめる。  
2. 固定ツマミ部をもって、取り付け方向と反対にスライドさせてはめます。

**ご注意**  
● 固定ツマミを回すときはレシーバー本体を回さないようご注意ください。  
● レシーバーがはずれにくいときは、固定ツマミを、反時計方向にとまるまで回してください。ロックが解除されます。  
● レシーバーのアンテナ感度の指向特性は、イラスト ④-4をご覧ください。(☆がFRONT方向です。)

● レシーバーのFRONT (受信部)がマイクロホン側(通常、対象物を撮影するビデオカメラのレンズ側)に向いていないと感度が悪くなります。

### マイクロホン (イラスト ④ 参照)

**取り付けの前に**  
電池(別売)をご用意ください。電池は単4形アルカリ乾電池または単4形ニッケル水素充電電池1本をご使用ください。ソニー製電池の使用をおすすめします。他の電池では、本機の性能が十分に発揮できない場合があります。

1. 電池ふたをはめます。  
2. 電池をケース内の表示に従って正しく入れる。  
3. 電池ふたを閉じます。

**衣服などに取り付ける**  
クリップで胸ポケットなどお好みの場所に取り付けてください。レシーバーに接続したイヤホンで音を確認する(このあたりの説明を参照)などして、使用する状況や音の状態にあわせて最適な位置に取り付けてください。

**ご注意**  
● スーツメーカーなど医療用電気機器を装着している場合は、胸ポケットや内ポケットへの装着、衣服への取り付けはしないでください。本機を医療用電気機器などの近くで使用すると、故障の原因となるおそれがあります。

**アームバンドを使う(イラスト ④ 参照)**  
アームバンドにクリップで取り付け、巻に巻つけてご使用ください。

**イヤホンハンガーを使う(イラスト ④ 参照)**  
お子様など耳の小さな方がご使用の際は、イヤホンがはずれやすい場合にお試しください。イラストのようにイヤホンハンガーにイヤホンを取り付けてください(イラスト ④-1)。アームバンドが耳のすぐそばに付くように位置を調節してください(イラスト ④-1は右耳に取り付けた状態です。)

### 使いかた

1. ビデオカメラのスイッチを入れ、スタンバイ状態にする。
2. レシーバーの電源/モードスイッチで希望のモードを選択し、マイクロホンの電源スイッチを「ON」にする。

レシーバーとマイクロホンの電源を入れたら、直後に両方の通信ランプが青色で遅い点滅をします。この状態で相手の機器を探検し、通信接続、認証を行っています。接続状態になり音声を明確に記録できる状態になると、両方の通信ランプが青色で点灯します。

レシーバーの通信ランプが点灯していることを確認したら、ビデオカメラの録音スタートスイッチを押す。

**ご注意**  
● 録音中にスイッチを切り換えると、正しくモードが切り替わらなかつたり、接続が途絶えて音声が記録されなかつたり、あるいはノイズが記録されてしまつたりする場合があります。必ずいったん録音を停止してから切り換えてください。

● 本機を使用して撮影すると、録音スタート時に操作音(おしらせ音)が記録される場合があります。お好みのビデオカメラの操作音(おしらせ音)を「切」にしてから録音することをおすすめします。詳しくは、お好みのビデオカメラの取扱説明書をご覧ください。

● MONO MIXモードで録音したとき、レシーバーとマイクロホンが同じ音声を収録すると、エコーや音割れが起きる場合があります。レシーバーとマイクロホンが同じ音声を収録しないよう、充分離れておいてください。

● マイクロホンの電源が入っていない状態や、レシーバーとマイクロホンが接続状態でないときに録音を開始すると、無音の状態になります。レシーバーの電源スイッチをONにして、レシーバーとマイクロホン両方の通信ランプが青色で点灯し、接続状態になっていることを必ず確認して、録音を開始してください。

● 叩くような衝撃音がマイクロホンに加わると、自動レベル調節のため2~3秒間周囲の音声が無音のようになりその後復帰する場合がありますが、故障ではありません。

### イヤホンによる音声の確認について

レシーバーのイヤホン端子にイヤホンをつなぐとマイクロホンが収録している音声を確認することができます。また、マイクロホンのイヤホン端子にイヤホンをつなぐとレシーバーが収録している音声を確認することができます。(5.1ch MIXモードとMONO MIXモードのときも、マイクロホン(トランスミッター)で収録している音声を確認できますが、ビデオカメラの録音のマイクロホン(レシーバー)のマイクで収録され、実際に録音される音声がレシーバーのイヤホン端子からは確認できません。)

● イヤホンの音量は音量調節ボタンの◎◎で調節できます。(録音される音声のレベルは変わりませんが、押しボタンと段階レベルが変化し、押し続けるとレベルが変化します。録音中に調節するボタンを押すたびに「ピー」という音が聞こえます。録音を始める前に音量調節を行うか、できるだけボタンの音が録音されないよう押し調節をご利用ください。

● 本機で無音状態の音声が、デジタル処理のため実際の音声よりほんの少し遅れて伝送されます。そのため、実際の音とイヤホンで聞く音がエコーのように聞こえたり、記録される映像とわずかにずれているように感じる場合がありますが、故障ではありません。

### 保証書とアフターサービス

**保証書**  
● 本機には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお取り置きください。  
● 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。  
● 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

**アフターサービス**  
調子が悪いときはまずチェックを  
この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。  
**それともお困りのときは**  
ソニーの相談窓口にご相談ください。

**保証期間中は**  
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

**保証期間経過後の修理は**  
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

**部品の保有期間について**  
当社ではワイヤレスマイクロホンの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低5年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとでも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、ソニーの相談窓口にご相談ください。

ご相談を受けるときは、次のことをお知らせください。  
● 製品名: ECM-HW2 (レシーバー単体 ECM-HW2 (R)、マイクロホン単体 ECM-HW2 (T))  
● 故障の状態: できるだけ詳しく  
● 購入年月日

### 主な仕様

**通信仕様**  
通信方式 Bluetooth標準規格 Ver.2.0  
出力 Bluetooth標準規格 Power Class 1  
主なBluetoothプロファイル Advanced Audio Distribution Profile, Audio Video Remote Control Profile

**通信距離\***  
最大 100 m  
\* カムコーダー側からマイクが見えている時の目安となる距離です。金属、人体などの障害物や反射面の有無など周囲の状況や電圧状況により変化します。

**レシーバー**  
マイク方式 モノラル 無指向性  
電源 アクティブインターフェースシュから供給(約7.2V)  
消費電力 約0.3 W (本機を使用した場合、ビデオカメラのバッテリーの使用時間がおよそ10%短くなります。)

外形寸法(幅×高さ×奥行き) 約48×66×52 mm  
質量 約59 g

**マイクロホン(トランスミッター)**  
マイク方式 モノラル 無指向性  
電源 1.5 V (単4形アルカリ乾電池または単4形ニッケル水素充電電池1本\*\*)  
消費電力 約0.3 W  
消費電圧 300~9,000 Hz  
連続動作時間 約3時間(ニッケル水素電池で25℃で使用するとき)  
低周波特性 低周波特性、アルカリ乾電池の使用時間が短くなります。ニッケル水素電池のご使用をおすすめします。

外形寸法(幅×高さ×奥行き) 約24×75×33.5 mm  
質量 約26 g (電池を含みます)

**レシーバー/マイクロホン(トランスミッター)共通**  
使用温度 5℃~40℃  
保存温度 -20℃~+60℃

**同梱物**  
レシーバー (ECM-HW2 (R)) (1)、マイクロホン(トランスミッター) (ECM-HW2 (T)) (1)、ウィンドスクリーン (1)、ポーチ (1)、アームバンド (1)、イヤホン (2)、イヤホンハンガー (1)、印刷物一式  
仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

**お願い**  
ニッケル水素電池はリサイクルできます。不要になった電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電池リサイクル回収店へお持ちください。

**Ni-MH ニッケル水素電池**  
充電電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については  
有限責任中間法人BRCホームページ  
http://www.brc.net/hp/contents/index.html  
を参照してください。

よくあるお問い合わせ先、解決方法などは、  
ホームページをご確認ください。  
http://www.sony.co.jp/support

**使い方相談窓口**  
フリーダイヤル……………0120-333-020  
携帯電話・PHS……………0466-31-2511  
受付時間 月~金: 9:00~18:00  
土・日・祝日: 9:00~17:00

**修理相談窓口**  
フリーダイヤル……………0120-222-330  
携帯電話・PHS……………0466-31-2531  
※取扱い商品リコール等納入品組込はご不明な場合はお問い合わせください。  
受付時間 月~金: 9:00~20:00  
土・日・祝日: 9:00~17:00

FAX (共通) 0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

左記番号へ連絡後、  
確認のためスタッフが  
流れてくる間に  
「400」+「#」  
を押してください。  
直接、担当窓口へ  
おつなぎします。

<div><span>中文</span><span>（簡）</span></div>
<p><span></span></p>
警告
<ul style="list-style-type: none"><li>为了减少火灾或触电的危险,切勿将本装置暴露在雨中或潮湿之中。</li> <li>本产品可以在购买国家或地区内使用。</li> <li>本装置已得到使用国家或地区的批准。如果撕掉批准标签使用本装置,则可能受到处罚处罚。</li></ul>
<div> <div><div><span><span>■</span></span><span> </span>使用频率：<span> </span>2.4 - 2.4835 GHz</div></div> <ul style="list-style-type: none"><li> <div><div><span><span>■</span></span><span> </span>等效全向辐射功率(EIRP):</div> <div>天线增益&lt;10dBi 时: ≤100 mW或≤20 dBm</div></div></li> <li> <div><div><span><span>■</span></span><span> </span>最大功率谱密度:</div> <div>天线增益&lt;10dBi 时: ≤10 dBm/MHz(EIRP)</div></div></li> <li> <div><div><span><span>■</span></span><span> </span>载频容限: 20 ppm</div> <div>a 不得擅自更改发射频率、加大发射功率(包括额外加装射频功率放大器)。</div> <div>不得擅自外接天线或改用其它发射天线;</div> <div>b 使用时不得对各种合法的无线电通信业务产生有害干扰; 一旦发现有干</div> <div>扰现象时,应立即停止使用,并采取措施消除干扰后方可继续使用;</div> <div>c 使用低功耗无线电设备,必须忍受各种无线电业务的干扰或工业、科学及</div> <div>医疗应用设备的辐射干扰;</div> <div>d 不得在飞机和机场附近使用。</div></div></li></ul> </div>
<p><span></span></p>
警告
<p>太大的耳机声压会损害听力。</p>

**特性**

- 本款无线麦克风是为配合配备 Active Interface Shoe（有源接口热靴）的兼容摄像机使用而专门设计的。
- 本款无线麦克风能够在距摄像机一定距离处清晰地接收拍摄对象发出的声音。
- 当与兼容 5.1 声道录音模式的摄像机配合使用时,本款无线麦克风将提供中间声道声音,传递清晰而又自然的声音。
- 本款无线麦克风基于 Bluetooth 无线通讯技术。
- 摄像机上安装的所有接收器都配备了麦克风单元和耳机,而拍摄对象则配备了麦克风(发射器,以后简称麦克风)。 即使隔开一定的距离,用摄像机拍摄场景的人与拍摄对象之间也能正常通讯,并可记录下声音。

## Bluetooth® 无线通讯技术

- Bluetooth 无线通讯技术允许各种 Bluetooth 设备在不使用连接线的情况下进行相互通讯。 可以使用此项技术的设备包括个人电脑、电脑外围设备和移动电话。
- 本接收器和麦克风在出厂时设定为相互通讯,因此不需要执行通常 Bluetooth 设备所需要进行的操作,如验证、配对和输入密码。 但是,它们无法与不匹配对购的接收器/麦克风或移动电话、个人电脑等任何其他 Bluetooth 设备进行通讯。

### 注意

- 本款无线麦克风可能会受到以下条件的影响。
  - 当接收器与麦克风之间有障碍物,如人、金属物、墙壁或反射性表面。
  - 在以下场所使用: 有无线 LAN 系统的环境中,多个正在操作中的 Bluetooth 设备附近,正在使用的微波炉旁,发射电磁波的地方。
- 如果麦克风放置在摄像机旁,则录制的声音中会有 RF 干扰或噪音。 使用时,麦克风与摄像机至少应保持 1 m 的距离。
- 如果因通讯能力下降而产生噪音或没有声音,接收器上的通讯指示灯将快速闪烁。 确保设备之间的距离不要太大,且相互之间没有障碍物。 当通讯指示灯稳定点亮时即可继续使用。

### 使用须知

- 切勿让任何液体或异物进入人体内。
- 切勿分解或改装无线麦克风。
- 切勿在医疗器材内使用本无线麦克风,如医院、电子医疗设备旁、飞行器中,或有发生无线电干扰其他设备的情况。 从本无线麦克风发射出的 RF 能量可能会干扰其他设备,从而导致意外事故。
- 无线通讯设备只能在获得了验证的国家或地区使用。
- 本款无线麦克风属精密设备。 切勿掉落、敲打或受到过度震动。
- 请将无线麦克风远离高温和潮湿。
- 如果在录音过程中将耳机放置在麦克风(声音拾取单元)旁,则可能会产生啸叫效果(声反馈)。 如果发生此情况,请将耳机放在距离麦克风(声音拾取单元)更远处,或减小耳机音量。
- 如果在录音过程中触摸麦克风,就会录下杂音。 请小心,手不要接触麦克风。
- 切勿抓住接收器拿起摄像机。
- 在低温下使用时,与在正常温度 (25℃ ) 下使用相比较,电池性能会下降,操作时间会缩短。
- 切勿将电池暴露在阳光、火或类似的极热环境下。

### 关于商标

- Bluetooth 商标归其所有者拥有, Sony Corporation 在其许可下使用。
- 本文中涉及的所有其他产品名称可能是各自公司的商标或注册商标。 另外,™和®在本手册中不再一一提及。

### 关于模式开关

以下模式可供使用。 通过在接收器上切换电源/模式开关,即可选择一种模式,然后开始录音。

- SINGLE 模式**

仅录制由麦克风拾取的声音。 即使摄像机远离麦克风,麦克风仍将以单声道拾取拍摄对象和周围环境同等清晰的声音。

- 5.1ch MIX 模式**

当与兼容 5.1 声道录音模式的摄像机配合使用时,本款无线麦克风将作为 5.1 声道录音的中置麦克风。 利用本款无线麦克风的 5.1 声道录音模式,可以记录麦克风 and 摄像机周围的自然声音。

- MONO MIX 模式**

以单声道记录由接收器和接收器拾取的声音(当接收器和麦克风拾取到同一声音时,可能会出现回声或限幅噪音。 使用兼容 5.1 声道录音模式的摄像机时,建议您在 5.1ch MIX 模式下使用本款无线麦克风)。

- 无论采用上述三种模式的哪一种,在建立通讯连接后,通过连接耳机,都有可能 在麦克风一端听到接收器周围的声音,以及在接收器一端听到麦克风周围的 声音。 这样,即便用摄像机拍摄场景的人与持有麦克风的拍摄对象之间隔开一定的距离,他们仍能进行正常通讯。

## 识别部件（参见图 A）

### 接收器（参见图 A-1）

- 耳机插孔**

可以监听麦克风正在拾取的声音。
- 正面(接收单元)**
- 锁扣旋钮**
- 热靴连接器(端子)**
- 音量调节按钮 ⊕⊖ (VOLUME)**
- 通讯指示灯**

指示灯根据如下设备和通讯状态点亮、闪烁或熄灭。

	状态	接收器	麦克风
打开接收器和麦克风电源的瞬间	蓝色缓慢闪烁(待机模式)		
建立连接并可以清晰录音	蓝色点亮		
关闭接收器或摄像机电源	熄灭	蓝色缓慢闪烁(待机模式)	
关闭麦克风	蓝色缓慢闪烁(待机模式)	熄灭	
由于通讯状况不佳而中断声音	蓝色快速闪烁		蓝色快速闪烁

- 麦克风风电池警告灯 (MIC BATT)**

当麦克风风电池剩余电量较低时,红色警告灯约每秒钟闪烁一次。 请立即更换新电池。

- 麦克风(拾音单元)**
- 电源/模式开关**

### 麦克风（参见图 A-2）

- 电源开关**

为了防止电池消耗,不使用时请关闭电源开关。
- 通讯指示灯(见 B 中的表格)**
- 耳机插孔**

可以监听接收器正在拾取的声音。
- 麦克风(拾音单元)**
- 腕带挂钩**

可以将腕带等(未附带)挂到麦克风上。 请根据需要选用。
- 电池警告灯 (BATT)**

当麦克风风电池剩余电量较低时,红色警告灯约每秒钟闪烁一次。 请立即更换新电池。
- 音量调节按钮 ⊕⊖ (VOLUME)**
- 电池舱盖**
- 夹子**

使用此夹子可以将麦克风别在衣服上或提供的臂带上。 可以将此夹子作为架子,将麦克风放置在桌面上。
- 防风罩**

罩在麦克风上,减少呼吸或大风产生的砰砰噪音。

### 产品中有害有害物质或元素的名称及含量

部件名称	有害有害物质或元素					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr (VI))	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
内置线路板	×	○	○	○	○	○
外壳	×	○	○	○	○	○
附件	×	○	○	○	○	○
○ 表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 SJ/T11363-2006 标准规定的限量要求以下。						
×						
表示该有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 SJ/T11363-2006 标准规定的限量要求。						

### 安装无线麦克风

### 接收器（参见图 B）

安装接收器或从摄像机上取下接收器时,必须先关闭接收器和摄像机的电源。

- 确保将接收器的锁扣旋钮逆时针转到底 ① (参见图 B-1)。
- 将接收器的底部箭头 ② 指向摄像机上的箭头方向 ③ (参见图 B-1)。
- 将接收器的热靴连接器(端子)插入摄像机上的插槽 ④ ,然后在按锁扣旋钮的同时,沿箭头 ⑤ 方向滑动接收器(参见图 B-1)。
- 顺时针转动锁扣旋钮(参见图 B-2)。
- 转动接收器,使其与摄像机镜头面朝相同方向。 接收器可以旋转约 270 度。 将接收器的正面(接收单元)朝向摄像机的镜头方向(参见图 B-3)。 旋转接收器 270 度以上可能会引起故障。

### 拆卸接收器

- 逆时针方向松开旋转钮。
- 按下锁扣按钮,并以旋钮的相反方向滑动接收器。

### 注意

- 转动锁扣旋钮时,小心不要转动接收器的主体部分。
- 如果接收器难以装上,请将锁扣旋钮逆时针转到底。 锁扣松开。
- 有关接收器天线的方向特性,请参见图 B-4。(☆ 表示正面。)
- 如果接收器的正面(接收单元)没有面对拍摄对象的摄像机(镜头方向),则接收质量可能不佳。

### 麦克风（参见图 C）

**安装之前**
准备电池(可选)。 使用 AAA 碱性干电池或 AAA Ni-MH 充电电池。 建议使用 Sony 电池。 使用其他品牌的电池可能无法获得设备的最佳性能。

- 拆下电池舱盖。**
- 按照电池舱内的极性指示,正确插入电池。**
- 盖上电池舱盖。**

**注意**
必须确认电池的 ⊕⊖ 极。 以错误的极性方向插入电池会导致电池泄漏或爆炸。

### 别在衣服上

使用夹子,将麦克风别在胸口衣袋上。 将麦克风固定在适合录音,并在用固定在接收器上的耳机监听时能提供最佳音质的位置(见下文所述)。

**注意**
如果您使用了起搏器等电子医疗设备,则切勿将麦克风别在衣服的胸袋或内袋上。 在医疗设备旁使用麦克风会对设备产生不良影响。

### 使用臂带（参见图 D）

使用夹子将麦克风别在臂带上,然后将臂带戴在手臂上。

### 使用耳挂（参见图 E）

儿童或耳朵较小的人使用耳机时容易滑落下来,此时可尝试使用耳挂。 请按图中所示将耳挂挂在耳挂上(参见图 E-1)。 将耳挂的臂架到耳朵上,然后调整位置,使耳机靠近耳孔。(图中的 B 是挂在左耳的情况。)

### 使用无线麦克风

- 打开摄像机电源,并设定在待机模式下。**
- 滑动接收器的电源/模式开关,选择所需的模式并打开麦克风电源。**

当接收器的电源/模式开关和麦克风的电源开关都设定为 ON 时,两个设备上的通讯指示灯立即开始以蓝色缓慢闪烁,此时设备正在进行检测,连接和相互鉴别。 待连接建立后,摄像机便能进行清晰录音,此时各设备上的通讯指示灯均为蓝色点亮。
- 确保接收器上的通讯指示灯点亮,然后按摄像机上的录制开始按钮。**

### 注意

- 如果在录音过程中切换电源/模式开关,模式可能不会改变,有时则会产生噪音或声音没有声音。 请停止录音再切换电源/模式开关。
- 为了避免在录音开始时的确认声音( BEEP) 被本无线麦克风拾取,建议在您的摄像机上将 [BEEP] 设定为 [关]。 详细说明,请参阅摄像机的使用说明书。
- 在 MONO MIX 模式下使用无线麦克风时,如果接收器和麦克风拾取到同一声音,可能会出现回声或限幅噪音。 请将麦克风放在更远离接收器的地方,以免拾取到同一声音。
- 如果关闭了麦克风电源或在开始录制时未连接接收器和麦克风,则会记录到噪音或声音没有声音。 确保接收器和麦克风上的通讯指示灯均以蓝色点亮,并已建立连接,然后开始录音。
- 如果麦克风上有撞击声,周围的声音就会因自动音量调节功能而被减弱,就像没有声音一样。 这种状态将持续两到三秒钟,然后恢复到以前的音量。 这是正常现象。

### 通过耳机监听声音

将耳机连接至接收器的耳机插孔,便能听到麦克风正在拾取的声音。 将耳机连接至麦克风的耳机插孔,便能听到接收器正在拾取的声音。(尽管摄像机的内部麦克风或接收器上的麦克风(声音拾取单元)也会以 5.1ch MIX 模式和 MONO MIX 模式拾取和录制声音,但那些声音无法通过接收器的耳机插孔进行监听。 只有麦克风(发射器)正在拾取的声音才可以监听。)

耳机的音量可通过音量调节按钮 ⊕ 和 ⊖ 进行调节。(此按钮无法改变所录制声音的音量。) 快按时,可以改变一个音级的音量。 按住时,音量将连续改变。 在录音过程中调节音量时,按此按钮时的哔哔声也会被录制下来。 请在录音之前调节音量,或者按住按钮不放,这样才不会录下太多的哔哔声。

- 本款无线麦克风以数字形式处理和发送声音,从而导致实际声音与录制声音(被监听的声音)之间有微小的滞后。 因此,在通过耳机监听时,可能会听到回音效果。 同样,在观看伴有用此无线麦克风录下声音的图像时,可能也会显现出延迟效果。 但这是正常现象。

<b>规格</b>	
<b>无线通讯系统</b>	Bluetooth 规格 Ver. 2.0
<b>输出</b>	Bluetooth 规格 Power Class 1
<b>主要的兼容 Bluetooth 通讯协议</b>	Advanced Audio Distribution Profile, Audio Video Remote Control Profile
<b>工作范围*</b>	最近 100 m <p>* 这是麦克风和摄像机之间视野自由时的近似通信距离。</p> <p>视录音位置而定,例如在 Bluetooth 设备之间的障碍物或反射性表面,无线电波等情况。</p>
<b>接收器</b>	
麦克风系统	单声道,无方向性
电源要求	通过 Active Interface Shoe（有源接口热靴）提供电源(约 7.2 V)
<b>功耗</b>	约 0.3 W (装有接收器时,摄像机电池的操作时间约 40%。)
<b>尺寸(长/高/宽)</b>	约 48 × 66 × 52 mm
<b>质量</b>	约 59 g
<b>麦克风(发射器)</b>	
麦克风系统	单声道,无方向性
电源要求	1.5 V (AAA 碱性干电池或 AAA Ni-MH 充电电池**) <p>** 不含电池。 不能使用锰干电池。</p>
<b>功耗</b>	约 0.3 W
<b>频率响应</b>	300 - 9000 Hz
<b>连续操作时间</b>	约 3 小时 <p>(25℃ 时使用 Sony 碱性干电池)</p> <p>低温下使用时,使用碱性干电池的操作时间将会缩短。 建议使用 Ni-MH 充电电池。</p>
<b>尺寸(长/高/宽)</b>	约 24 × 75 × 33.5 mm
<b>质量</b>	约 26 g (不包括电池)
<b>所含物品</b>	
接收器 (ECM-HW2(R)) (1),麦克风(发射器) (ECM-HW2(T)) (1),挡风罩 (1),便携袋 (1),臂带 (1),耳机 (2),耳挂 (1),成套印刷文件	

设计或规格如有变动,恕不另行通知。

**Active Interface Shoe**
此标志表示配合 Sony 视频产品使用的有源接口热靴系统。本系统配备的视频组件和附件是为了有效的录音更为简单。

索尼公司
出版日期: 2010 年 5 月

## 10

<div><span>한국어</span></div>
<p><span></span></p>

장치를 사용하기 전에 본 사용설명서를 숙독하고 추후 참조를 위해 잘 보관하여 주십시오.

## 경고

- 제품에 밀물이 들어가거나 습기가 차면 화재나 감전의 위험이 있습니다. 밀물이나 습기를 방지해 주십시오.
- 당해 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다.
- 본 제품은 구급하진 국가나 지역에서 사용할 수 있습니다.
- 본 제품은 원래 의도된 국가나 지역에서만 사용이 인가되었습니다.본 제품은 인가 라벨이 부착되어 있으며, 이 라벨이 없는 제품을 사용할 경우 법에 따라 처벌을 받을 수 있습니다.

## 경고

이어폰과 헤드폰의 소리를 너무 크게 하면 청각이 손상될 수 있습니다.

## 특징

- 본 무선 마이크로폰은 Active Interface Shoe가 장착된 호환 비디오 카메라에서 사용할 수 있도록 설계되었습니다.
- 본 무선 마이크로폰은 비디오 카메라와 떨어져 있는 피사체의 사운드를 깨끗하게 캡처할 수 있습니다.
- 5.1ch 촬영에 호환되는 비디오 카메라와 본 무선 마이크로폰을 함께 사용하면 있는 그대로의 소리를 센터 채널 사운드로 선명하게 재생할 수 있습니다.
- 본 무선 마이크로폰은 Bluetooth 무선 통신 기술에 기반을 두고 있습니다.
- 마이크로폰 기 및 이어폰은 비디오 카메라에 설치된 각 리시버 및 피사체의 마이크로폰(송신기, 이하 '마이크로폰') 각각에 대해서 제공됩니다. 비디오 카메라로 장면을 촬영하고 있는 사람 및 피사체인 사람은 떨어져 있어도 대화를 할 수 있으며 그 사운드를 기록할 수 있습니다.

## Bluetooth® 무선 통신 기술

- Bluetooth® 무선 통신 기술은 케이블을 사용하지 않고 다양한 장치에 통신간지의 통신을 가능하게 합니다. 이 기술을 사용할 수 있는 장치에는 PC, 컴퓨터 별첨 장치 및 휴대전화 등이 있습니다.
- 리시버 및 마이크로폰은 동강출하 시에 서로 통신할 수 있도록 설정되어 있으며, Bluetooth 장치에서 통신할요한 인코, 페어링 및 액세스 키 입력 등의 조치가 필요하지 않습니다. 그렇지만, 에어로 판매되고 있지 않은 리시버 또는 마이크로폰, 또는 휴대전화, PC 등과 같은 Bluetooth 장치와는 통신할 수 없습니다.

### 주의

- 본 무선 마이크로폰은 다음과 같은 상황에서 통신감도에 영향을 받을 수 있습니다.
  - 리시버 앞부분과 마이크로폰 사이에 사람, 금속 물체, 벽 또는 반사면과 같은 장애물이 있는 경우.
  - 같은 LAN 시스템이 구축되어 있는 곳, 다수의 Bluetooth 장치가 작동중인 곳의 근처, 사용중인 전자레인지 근처, 또는 전자기과가 발생하는 곳.
- 마이크로폰을 비디오 카메라 근처에 가져가면 기록된 사운드에 RF 간섭 또는 노이즈가 생길 수 있습니다. 사용중에는 마이크로폰을 비디오 카메라로부터 1 m 이상 떨어지도록 해 주십시오.
- 노이즈가 많거나 통신상태 악화로 사운드가 들리지 않는 경우에는 리시버의 통신 램프가 고속으로 점멸합니다. 장치간의 거리가 너무 멀지 않도록 하고 그 사이에 장애물이 없도록 하십시오. 통신 램프가 안정되게 점멸한 상태에서 사용해 주십시오.

## 사용상의 주의

- 케이스 안에 액체 또는 이물질이 들어가지 않도록 해 주십시오.
- 무선 마이크로폰은 분해 또는 개조하지 마십시오.
- 본 무선 마이크로폰은 병렬과 같은 의료 기구, 의료 전자장치 근처, 항공기 내, 또는 다른 장치와의 무선 간섭이 발생하는 경우에는 사용하지 마십시오. 모든 무선 장치와의 무선으로부터 방출되는 RF 에너지는 다른 장치와 간섭해서 사고를 유발할 수 있습니다.
- 무선 통신 장치는 인증받은 국가 또는 지역에서만 사용할 수 있습니다.
- 본 무선 마이크로폰은 정밀 기기입니다. 떨어뜨리거나, 치거나 강한 충격 을 가지지 마십시오.
- 무선 마이크로폰은 고온 또는 다습한 곳에는 보관하지 마십시오.
- 사용중이 이어폰과 마이크로폰(사운드 픽업 기기) 근처로 가져가면 하울링 효과(울창효과)가 발생할 수 있습니다. 이런 경우에는 이어폰을 마이크로폰(사운드 픽업 기기)으로부터 떨어지도록 하거나 이어폰의 볼륨을 줄여 주십시오.
- 촬영중이 마이크로폰을 만지면 노이즈가 기록됩니다. 손과 같은 것으로 마이크로폰을 만지지 않도록 주의해 주십시오.
- 리시버로 비디오 카메라를 잡지 마십시오.
- 저온에서 사용하는 경우에는 상온(25 ℃)에서 사용할 때보다 배터리 성능이 떨어지며, 작동 시간이 짧아집니다.
- 배터리를 햇빛, 불 등과 같은 과도한 열에 노출시키지 마십시오.

### 상표에 관해서

- Bluetooth 상표는 상표권리자가 소유하고 있으며 Sony사가 라이선스 에 근거하여 사용합니다.
- 기타 본 설명서에 언급한 모든 제품명은 각 소유 회사의 상표 또는 등록 상표입니다. 또한 ™ 및®은 본 매뉴얼의 각 경우에 있어서 언급되어 있지 않습니다.

### 모드 스위치에 관해서

다음과 같은 모드를 이용할 수 있습니다. 리시버의 전원/모드 스위치를 변 환해서 그 중의 하나를 선택한 후 촬영을 시작합니다.

### SINGLE 모드

마이크로폰이 수목한 사운드만이 녹음됩니다. 마이크로폰은 비디오 카메라가 마이크로부터 떨어져 있더라도 피사체 및 주변 사운드를 모두 똑같이 선명한 모노로 녹음합니다.

### 5.1ch MIX 모드

5.1ch 촬영과 호환하는 비디오 카메라와 함께 사용하는 경우에는 본 무선 마이크로폰이 5.1ch 촬영의 센터 채널 사운드로 작동합니다. 마이크로 폰 및 비디오 카메라 주변의 자연선 사운드를 본 무선 마이크로폰을 사용해서 5.1ch 촬영으로 기록할 수 있습니다.

### MONO MIX 모드

마이크로폰 및 리시버 모두로 녹음한 사운드가 모노로 녹음됩니다.(리시 버 및 마이크로폰으로 같은 사운드를 녹음하는 경우 예로 또는 끄기는 노이즈가 발생할 수 있습니다. 5.1ch 촬영과 호환하는 비디오 카메라를 사 용하는 경우에는 5.1ch MIX 모드에서 본 무선 마이크로폰을 사용할 것 을 권장합니다.)

- 이들 모드 중의 하나에서, 통신을 위해서 접촉한 동안 이어폰을 연결함으로 무선 마이크로폰의 리시버 전원이 켜지면 리시버의 마이크 주위 사운 드를 들을 수 있습니다. 이것으로 비디오 카메라로 장면을 촬영하는 사람과 마이크로폰을 잡고 있는 피사체가 떨어져 있을 때에 서로 대화할 수 있습니다.

## 각부의 명칭 (그림 A 참조)

### 리시버 (그림 A-1 참조)

- 이어폰 잭**

마이크로폰이 캡처하는 사운드를 확인할 수 있습니다.
- 전원(수신 기기)**
- 잠금 손잡이**
- 슈 커넥터(단자)**
- 볼륨 조정 버튼 ⊕⊖ (VOLUME)**
- 통신 램프**

장치 및 통신 상태에 따라서 램프가 다음과 같이 점등, 점멸 또는 소등합 니다.

상태	리시버	마이크로폰
리시버 및 마이크로폰의 전원을 켜 진후	청색으로 천천히 점멸 (스텐바이 모드)	
접속이 되고 사운드를 선명하게 녹음할 수 있 다	청색으로 점등	
리시버 또는 비디오 카 메라의 전원을 끈다	소등	청색으로 천천히 점멸 (스텐바이 모드)
마이크로폰의 전원을 끈 다	청색으로 천천히 점멸 (스텐바이 모드)	소등
통신 상태가 좋지 않아 서 오디오가 끊긴다	청색으로 빠르게 점멸	청색으로 빠르게 점멸

- 마이크로폰 배터리 경고 램프 (MIC BATT)**

마이크로폰의 배터리 잔량이 적으면 적색 경고 램프가 약 1초 주기로 점멸합니다. 즉시 새 배터리로 교체해 주십시오.
- 마이크로폰(사운드 픽업 기기)**
- 전원/모드 스위치**

### 마이크로폰 (그림 A-2 참조)

- 전원 스위치**

배터리의 소모를 방지하기 위해서 사용하지 않을 때에는 전원 스위치를 꺼 주십시오.
- 통신 램프(⑥)의 표 참조**
- 이어폰 잭**

리시버가 캡처하는 사운드를 확인할 수 있습니다.
- 마이크로폰(사운드 픽업 기기)**
- 스트랩용 후크**

마이크로폰에 스트랩(동봉되어 있지 않음) 등을 부착할 수 있습니다. 필요에 따라 사용해 주십시오.
- 배터리 경고 램프(BATT)**

마이크로폰의 배터리 잔량이 적으면 적색 경고 램프가 약 1초 주기로 점멸합니다. 즉시 새 배터리로 교체해 주십시오.
- 볼륨 조정 버튼 ⊕⊖ (VOLUME)**
- 배터리실 뚜껑**
- 클립**

이것을 사용해서 마이크로폰을 옷 또는 부속된 알 밴드에 부착합니다. 클립을 스트랩으로 사용해서 마이크로폰을 책상 등의 위에 놓을 수도 있습니다.
- 윈드 스크린**

마이크로폰 위에 사용해서 습이나 강한 바람에 의한 노이즈를 줄여줍니다.

**Active Interface Shoe**
이것을 사용해서 마이크로폰을 옷 또는 부속된 알 밴드에 부착합니다. 클립을 스트랩으로 사용해서 마이크로폰을 책상 등의 위에 놓을 수도 있습니다.

**윈드 스크린**
마이크로폰 위에 사용해서 습이나 강한 바람에 의한 노이즈를 줄여줍니다.

## 무선 마이크로폰 부착하기

### 리시버 (그림 B 참조)

- 리시버를 비디오 카메라에 부착할 때나 비디오 카메라로부터 리시버를 제거 할 때에는 리시버 및 비디오 카메라의 전원을 반드시 켜 주십시오.
- 리시버의 잠금 손잡이가 반시계방향 ① 으로 완전히 돌아간 것을 확인해 주십시오(그림 B-1 참조).**

- 리시버의 하부에 있는 화살표 ② 를 비디오 카메라의 화살표 ③ 와 맞춥니다(그림 B-1 참조).**
- 리시버의 슈 커넥터(단자)를 비디오 카메라의 슬롯 ④ 에 삽입한 후, 잠금 손잡이를 누른 상태에서 화살표 ⑤ 방향으로 리시버를 슬라이드 합니다(그림 B-1 참조).**
- 잠금 손잡이를 시계방향으로 돌립니다(그림 B-2 참조).**
- 리시버를 회전시켜서 비디오 카메라의 렌즈와 같은 방향을 향하도록 합니다.**

리시버는 약 270도 회전시킬 수 있습니다. 리시버의 전원(수신 기기)이 비디오 카메라의 렌즈쪽을 향하도록 합니다(그림 B-3 참조). 리시버를 270도 이상 회전시키면 오작동을 유발할 수 있습니다.

### 리시버를 떼어내려면

- 잠금 손잡이를 반시계방향으로 풀니다.**
- 투각할 때에는 잠금 손잡이를 잡고 리시버를 반대 방향으로 슬라이드시켜 주십시오.**

### 주의

- 잠금 손잡이를 돌릴 때에는 리시버의 본체를 돌리지 않도록 주의해 주십시오.
- 리시버의 부착이 어려운 경우에는 잠금 손잡이가 정지할 때까지 반시계방 향으로 돌려 주십시오. 잠금이 해제됩니다.
- 리시버 안테나의 방향특성은 그림 B-4를 참조해 주십시오. (☆ 가 앞쪽 입니다.)
- 리시버의 전면(수신 기기)이 마이크로폰(통신 피사체를 향하는 비디오 카메라의 렌즈쪽)을 향하지 않도록 합니다. 수신 상태가 좋지 않게 됩니다.

### 마이크로폰 (그림 C 참조)

**부착하기 전에**
배터리(윤선)를 준비합니다.
사이즈 AAA 알칼라인 건식 배터리 또는 사이즈 AAA Ni-MH 충전 배터리를 사용해 주십시오.
Sony 배터리를 권장합니다. 본 장치는 타사의 배터리로는 최적의 성능을 낼 수 없는 경우가 있습니다.

- 배터리실 뚜껑을 제거합니다.**
- 내부의 극성 표시에 따라서 배터리실에 올바르게 배터리를 삽입해 주십시오.**
- 배터리실 뚜껑을 부착합니다.**

### 주의

배터리의 ⊕⊖ 극을 반드시 확인해 주십시오. 배터리의 극성을 잘못 삽입한 누액 또는 과열을 초래할 수 있습니다.

### 의복 등에 부착하기

마이크로폰을 클립으로 가슴의 포켓 등에 부착합니다. 촬영 위치에 적합한 위치에 마이크로폰을 부착해서 리시버에 부착된 이어폰을 통해서 확인하면서 최적의 사운드를 제공합니다(이후에 설명).

### 주의